

## 空き家再生プロジェクト —岡山市東区犬島ワークショップ—

細 田 みぎわ\*

(2018年12月9日 受理)

### Project of Renovated Vacant House Workshop Program in Inushima Island, Higashi Ward, Okayama City

Migiwa HOSODA\*

#### 1. はじめに

岡山県東区の瀬戸内海に浮かぶ島—犬島は、犬島諸島最大の島で、岡山市内唯一の有人離島である。3年に一度「瀬戸内国際芸術祭」が行われる島の一つで、公益財団法人福武財団（ベネッセグループ）が運営する「犬島精錬所美術館」や「犬島『家プロジェクト』」、「犬島くらしの植物園」等により現代アートを楽しむことができ、近年、多くの観光客が訪れる。

かつて犬島には、花崗岩の採石場や銅の精錬工場があり、1910年代の人口は3000～5,000名であったが、産業が途絶え高齢化が進み、年々減少し、現在人口30名弱となった。その内10名ほどは、福武財団関係者、観光客のためのカフェの運営者など若い移住者である。

人口減少と共に、住宅は家主を失うと劣化が加速化し、次々に廃屋となり朽ちていく。福武財団の関係者は、高齢化により島の住民の消滅を懸念しており、新たな移住者を求めている。アートしかない島ではなく、生活の中にアートが根付く姿を発信していきたいという。そのためには、移住者の住まいの環境を整える必要がある。

そこで、この空き家再生プロジェクトでは、岡山市移住者支援と連動する形でワークショップを実施し、島の住民との交流をはかる。その後、移住者の住居を確保するため、空き家のリノベーションの設計、施工を行う。

本研究は、筆者が2011年から活動している廃材プロジェクトの一環である。住宅の廃材（木材）に役割を与え、産業廃棄物として焼却される時期を少しでも後に伸

ばし、CO2 排出を抑えることを目的としてきた。新築が不可能な犬島における廃材プロジェクトでは、古い家、及びその廃材に新たな役割を与えることにより、循環型の環境整備を実現することができる。今回はワークショップと廃屋リノベーションで構成し、本論はワークショップの報告書である。

#### 2. 背景

犬島に建つ築50～100年の住宅は、銀色の瓦屋根、塩害から守るための焼杉板の黒い外壁、花崗岩の門柱や土留めが特徴的であり、起伏のある土地に同じ様相で群れて建ち、集落を形勢している。



写真1 犬島の様子

犬島は、都市計画法では市街化調整区域である。市街化区域とは異なり、極力新築・増築を抑える地域とされているため、住宅の新築、用途変更が認められていない。2017年より一部用途変更を認める岡山市の緩和条例により、住宅を宿泊施設へと用途変更に伴うリノベーションが可能となった。しかし、依然として移住者は、空き家を再生して住まいを確保しなければならない。

\* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科教授

### 3. 現状の問題点

住宅は、家主を失うと劣化が加速化し、次々に廃屋となり朽ちていく。雨漏りと共に植物に浸食され、屋根が落ちると再生不可能となる。所有者が行方不明の場合は、周辺に危険を及ぼすため市の許可を得て取り壊しとなる（写真2）。

また、取り壊しの際に排出した廃材（写真3）は、船をチャーターして産業廃棄物として、本土で処分されることになり、高額な費用が問題となっている。

「家プロジェクト」を設計した東京の建築家は、「くらしの植物園」の企画、「ステイ」（宿泊施設）等を設計し、その他にもスロープロジェクトを進行させている。しかし、その間も高齢化は進行し、島を離れ、高齢者施設等に移住する人がおり、人口減少が進んでいるのが現状である。



写真2 植物に浸食された廃屋



写真3 廃材

### 4. 目的

本研究は、筆者が2011年から活動している廃材プロジェクトの一環である。2011年「森のかげら」展 vol. 1, 2012年「森のかげら」展 vol. 2 を開催し、ワークショップ等を実施してきた。廃材プロジェクトとは、住宅を構成している廃材（木材）に役割を与え、産業廃棄物として焼却することによるCO2排出を少しでも後伸ばしをすることを目的とする。

住宅を新築する際に多くの端材が出る（写真4）。その端材に新しい役割を与えて「森のかげら」と呼ぶ。建築する際に廃材が多く排出されることを一般の人に知らせ、興味を持ってもらう。そして、直接手で木を触り、観察し、その特性を活かすアイデアを考え、製作体験をしてもらい、廃材をモノとして蘇らせるというコンセプトで進められた（写真5）。

今回は、犬島の新たな移住者の住まいや住環境整備を、地元の中国地方の学生や設計者により行い、空き家再生を行う。新築が不可能なこの島において、古い家、及び廃材に新たな役割を与えることにより、循環型の環境整備の実現を目指す。



写真4 材木工場から排出される端材



写真5 廃材で製作した照明器具

### 5. 方法

本研究は、ワークショップと廃屋リノベーションで構成する。本論は、ワークショップの報告書とする。

#### 1) ワークショップ

島の住人とのコミュニケーションツール—外部に設置するベンチ・スツール、楽器等—をつくる。学生や移住に興味を持つ人を対象とし、住人とコミュニケーションをとり、島のことを知るきっかけにする。

#### 2) 廃屋リノベーション

新築が不可能な犬島では、空き家を再生して、新たな移住者の住まい、短期滞在型のシェアハウスや宿泊施設をつくる必要がある。移住者本人のDIY、島の住人、学生ボランティア、プロの設計者・施工業者等による適材適所の分業を予定し、建築・インテリア系の学生の実践的な学修の場となるであろう。尚、工事費は移住者の費用でまかなう。

### 6. ワークショップの報告

2017年3月～2017年10月に、4回のワークショップを実施した。質の高いものの製作と持続可能な活動の情報発信を目差して、ものづくりを行った。

#### 1) 日程、参加人数

- ・第1回目：2017年3月19日～20日 参加人数17名
- ・第2回目：2017年5月5日～6日 参加人数25名
- ・第3回目：2017年9月9日～10日 参加人数15名
- ・第4回目：2017年10月14日～15日 参加人数33名

尚、第4回は、日本インテリア学会中国・四国支部学生ネットワーク「マンセル」のワークショップを同時開催したため、学生の参加人数が多い。（参加大学：広島工業大学、安田女子大学、広島女学院大学）

#### 2) スケジュール

1泊2日、製作工程：合計8時間

宿泊場所：岡山市立犬島自然の家（旧小学校、中学校）

□1日目

11:00 宝伝港出発、11:10 犬島着

午前中は島を観光し、観察時間とする。（各自昼食）



13:00~18:00 作業

- ・ 廃材を選別し、材料を集め、製作するものを決める（事前に決めている場合もある）。(写真7)
- ・ 外部に設置するため、脚部は新しい木材で合理的に設計された部材を切り出す。主に手動のこぎり使用。
- ・ 設置する場所、座板のデザインを考えて製作する。背板を付ける場合は、その取り付け方の指導を受けて、構造を考慮して製作する。(写真7)

18:00 宿泊場所に移動、チェックイン

18:30 夕食の後、風呂、交流会、就寝

□ 2日目

7:30 朝食

9:00 各自チェックアウト後、作業場に集合

9:00~12:00 主に組立(写真7)、午前中に製作を終了

12:00~13:00 昼食

13:00~14:00 演奏会(第3回のみ、写真7)、撮影会(写真7)、講評会(写真7)、設置場所へ搬入、後片付け

その後、自由行動(アート・建築見学)

15:35 犬島港出発

15:45 宝伝港着、解散

3) 作業場所

各回の作業場所(A, B, C)を写真6に示す。

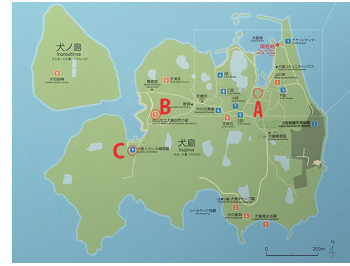


写真6 犬島の地図(犬島に設置の看板ガイドマップを撮影)

4) 広報

SNS, 学内のポータルサイト等により行った。



図8 第4回犬島/廃材/workshopのチラシ

5) スタッフ

講師: 賀来寿史(木工家),

ヤマサキマサオ(シェアウッズ代表, カホン指導), 田中良平(カホン指導)

撮影: 石川いづみ(第1, 2, 4回), 近江志乃(第3回),  
協力: 公益財団法人福武財団, 岡山市立犬島自然の家, 白須寛規(建築家), 谷口和生(大工), 細田勇(大工)

6) 内容

各回の内容を表・写真9~12に示す。



使用する道具



廃材を選別



指導を受ける



組立



カホンによる演奏会



撮影会



講評会

写真7 プロセス



表・写真9 第1回ワークショップ

|      |                |          |
|------|----------------|----------|
| 日時   | 2017. 3/19 (日) | 20 (月・祝) |
| 天候   | 晴れ時々薄曇り        | 晴れのち曇り   |
| 最高気温 | 18℃            | 15℃      |
| 参加人数 | 合計             | 18名      |
|      | 一般             | 13名      |
|      | 学生             | 3名       |
|      | 子供             | 2名       |
| 製作物  | ベンチ            | 8        |
|      | テーブル (建具の再利用)  | 2        |
|      | スツール           | 2        |
| 場所   | A：犬島港付近の空き地    |          |

表・写真10 第2回ワークショップ

|      |                         |           |
|------|-------------------------|-----------|
| 日時   | 2017. 5/5 (金・祝)         | 6 (土)     |
| 天候   | 晴れ時々曇り                  | 曇りのち雨一時晴れ |
| 最高気温 | 27℃                     | 20℃       |
| 参加人数 | 合計                      | 27名       |
|      | 一般                      | 14名       |
|      | 学生                      | 7名        |
|      | 子供                      | 6名        |
| 製作物  | ベンチ                     | 4         |
|      | ベンチに塗装 (子供の作業)          |           |
|      | スツール                    | 4         |
| 場所   | A：犬島港付近の空き地             |           |
|      | B：犬島自然の家のピロティ (雨天のため移動) |           |
| 見学   | 犬島内を散策し、設置場所を各自設定する     |           |





表・写真11 第3回ワークショップ

|      |               |         |
|------|---------------|---------|
| 日時   | 2017. 9/9 (土) | 10 (日)  |
| 天候   | 晴れのち薄曇り       | 晴れ時々薄曇り |
| 最高気温 | 27℃           | 27℃     |
| 参加人数 | 合計            | 15名     |
|      | 一般            | 10名     |
|      | 学生            | 4名      |
|      | 子供            | 1名      |
| 製作物  | カホン           | 9       |
|      | スツール          | 2       |
|      | ビッグテーブル       | 2       |
|      | 背板つき椅子, ベンチ   | 4, 1    |
| 場所   | C: 犬島くらしの植物園  |         |
| 演奏   | カホンによる演奏      |         |



表・写真12 第4回ワークショップ

|       |                                  |        |
|-------|----------------------------------|--------|
| 日時    | 2017. 10/14 (土)                  | 15 (日) |
| 天候    | 曇り一時雨                            | 雨      |
| 最高気温  | 22℃                              | 20℃    |
| 参加人数  | 合計                               | 33名    |
|       | 一般                               | 14名    |
|       | 学生                               | 17名    |
|       | 日本インテリア学会中国・四国支部学生ネットワーク<マンセル>協力 |        |
| 製作物   | 背板付きベンチ                          | 5      |
|       | スツール                             | 1      |
|       | カホン                              | 5      |
|       | 子供                               | 2名     |
| 場所    | B: 犬島自然の家のピロティ                   |        |
| コンサート | カホン, シタールによるミニコンサート              |        |





## 7. 結果・考察

製作家具の使用状況を写真13～16に示す。いずれも外部設置のため安全性を考慮して、脚部は廃材ではなく製材を持ち込んで製作した。第1回は、完成後、島のおとうさんがとてもうれしそうにベンチに座ってくれたのが印象的であった。第2回は、第1回の反省の元に、事前に設置場所を決め、その環境に合わせて製作するために島内を観察する時間を設けた。第3回は、スツールに背板をつけ、背板つき椅子を製作した。また、犬島くらしの植物園に設置されているピザ釜の前に置くビッグテーブルの製作依頼があり、製作した。当初は3回で終了する予定であったが、島民の要望があり、第4回を実施した。第4回は、日本インテリア学会中国・四国支部の協力により、背板つきベンチを製作し、廃材は使用しなかった。

参加者は、4回参加6名、3回参加6名、2回参加5名、とりピーターが多い。回を重ねるごとに、島民との距離が縮まり、顔なじみになっていった。そして、島の住人が観光客や移住者に対する意識が徐々に変わりつつあり、私たちの島を若い人に見てもらいたい、というおもてなしの気持ちが徐々に芽生えつつある。月1回開催の「おかあさんの元気市」は、島民と移住者で構成されている婦人会の主催で開催されているが、そこでもワークショップで製作したテーブル、ベンチが使用されている。高齢者の元気な姿に貢献しているといえる。

## 参考文献

- ・ベネッセアートサイト直島 島の概要（2018年11月25日閲覧）  
<http://benesse-artsite.jp/about/island.html>



写真13 第1回ベンチ\_\_おかあさんの元気市にて使用



写真14 第2回スツール\_\_犬島くらしの植物園にて使用



写真15 第3回ビッグテーブル\_\_犬島くらしの植物園にて使用



写真16 第4回背板付きベンチ\_\_島のカフェ外部の待ちスペースにて使用